

学習指導要領		都立豊多摩高校 学カスタンダード
<p>(1) 現 代 に 生 きて 自 己 の 課 題</p>	<p>自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期に関する諸学問の成果や世論調査の結果などの資料を活用して、青年期の意義と課題について説明できる。 ・マズローの欲求階層説などを基に、人間は自分自身を成長、発展させ、自己実現を図ろうとする欲求をもつことについて説明できる。 ・青年期には、自意識の過剰や対人関係における悩みなどを経験し、それらを乗り越えながらアイデンティティを確立していくことについて、エリクソンの考え方を基に説明できる。 ・情報化の進展とともに現実の人間関係の希薄化が進む中で、豊かな人間関係を築くために何が必要かについて、様々な意見を踏まえて自己の意見を説明できる。 ・現代の倫理的課題について理解を深め、自らの在り方生き方を考察する上で、同時代を生きる人々の生き方から適切な手掛かりを見出し、考察を深めることが重要であることについて説明できる。
<p>(2) 人 間 と し て の 在 り 方 生 き 方</p>	<p>自己の生きる課題とのかかわりにおいて、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。</p> <p>ア 人間としての自覚</p> <p>人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想や優れた芸術作品などから多様な価値を学び取り、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義について主体的に考察し、自己の考えを説明できる。 ・古代ギリシアの自然哲学者から新プラトン主義に至る思想的な流れを理解し、神話的な世界観を脱して、理性によって自然や人間の本質を追究したギリシア哲学の展開について説明できる。 ・一神教徒と多神教について、発祥した地域の自然条件や社会的背景などに触れながら、その相違点を説明できる。 ・パウロの原罪の思想にみられるキリスト教の人間観について理解し、人類愛の実践を説くキリスト教の精神は普遍的な価値をもっていることを説明できる。 ・イスラム教の成立過程とその変遷について理解し、同じ一神教であるユダヤ教、キリスト教と比較して、その共通点や相違点を説明できる。

学習指導要領	都立豊多摩高校 学カスタンダード
<p>イ 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教の説く人間観について理解し、「中道」や「慈悲」の教えを実践する生き方について、その現代的な意義を説明できる。 ・ 儒教の成立から朱子学、陽明学の発展に至る中国思想の流れを理解し、望ましい人間関係を構築しながら社会生活を営み、経世済民を実現するための様々な考え方について説明できる。 ・ 古代日本人の宗教観や人間観について、「古事記」や「日本書紀」、「万葉集」などの記述を踏まえて説明できる。 ・ 日本人の自然観の形成について、砂漠型や牧場型の風土との比較や、自然を神の被造物と捉える一神教的な考え方との比較を通じて説明できる。 ・ 古代から現代に至るまでの我が国における仏教の歴史的展開について、代表的な人物とその思想を踏まえて理解するとともに、仏教の文化的な影響について説明できる。 ・ 江戸時代の武士階級における儒学の定着と発展に対置する形で、町人や農民に広がった新たな考え方として、石門心学や報徳思想、自然世などについて理解する。 ・ 古代から近世に至る仏教や儒教等の外来思想の受容という歴史的な文脈の中で、日本固有の精神の究明を目指した国学がどのような形で発展したのかについて説明できる。 ・ 新渡戸稲造の「武士道」や夏目漱石の「自己本位」の考え方を事例として、国際社会に生きる日本人としての在り方や日本人としてのアイデンティティについて説明できる。 ・ ルネサンスや宗教改革を先導した人々の考え方や、モラリスト、カントの思想等を具体的に例示して、近代的な個人を特徴付ける自由に対する意識及び人間の尊厳について説明できる。 ・ 科学革命の先駆者や、イギリス経験論、大陸合理論の系譜に連なる先哲の思想など、現代の科学技術の成立とその発展に寄与した考え方について説明できる。

学習指導要領		都立豊多摩高校 学カスタンダード
<p>(3) 現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>ア 現代に生きる人間の倫理 人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。</p> <p>イ 現代の諸課題と倫理 生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋における民主社会の形成とその発展について理解するとともに、社会契約説の考え方を踏まえて、現実の市民革命等の歴史的事象を理論的に説明できる。 ・ヘーゲルやマルクス、功利主義の思想家などが、近代市民社会の諸矛盾を解決するために打ち立てた思想や考え方について、当時の社会状況を踏まえて説明できる。 ・実存主義を有神論的な実存主義と無神論的な実存主義に分類して捉え、その相違点と共通点を踏まえて、主要な思想家の考え方を説明できる。 ・サルトルのアンガージュマン（社会参加）の考え方などを援用し、積極的な社会とのかかわりの中で人間は自己の在り方を選択していくということを説明できる。 ・ロールズやA.センの考え方などを基に、社会全体の幸福を増大させる、公正な社会を実現するための諸原理について説明できる。 ・科学技術の発達が人間の身体観や生命観に与える影響について、例えば脳死と臓器移植の問題や、生命の質(QOL)と生命の尊厳(SOL)の問題などを事例として説明できる。 ・地球環境問題の解決に向けて、これまでの国際的な取組を踏まえながら、環境倫理や国際協調の視点に立った改善策を提案できる。 ・少子高齢社会の到来が、家族の在り方や人々の働き方、地域社会の役割などを改めて見直す契機となることについて説明できる。 ・メディア情報が生み出すステレオタイプや、疑似イベントの危険性など、負の側面にも触れて、情報社会の進展がもたらす影響を説明できる。 ・異なる文化や宗教をもつ人々が、相互の差異を認め合い、共生していくことを指向する多文化主義の考え方について説明できる。 ・人類全体の福祉と国際平和の実現に向けて、我が国に求められる国際貢献の在り方などについて、事例を挙げて説明できる。 	

学習指導要領	都立豊多摩高校 学カスタンダード
<p>的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p>	